

(別表)

仙台市地域防災リーダー(SBL)養成講習カリキュラム
(実技・演習方式で受講者が取り組みやすい講習とする。)

	役割(履修科目)	具体的な内容(実技・演習)	時 間	単 位	担 当
①	◇自助・共助・公助の役割 1-1 自助・共助と活動支援(公助) 1-2 地域防災リーダーの役割 1-3 仙台市の自主防災活動の支援策等 1-4 地域団体との連携の必要性	◇自助・共助の必要性や仙台市の自助・共助への支援制度を理解する。 ◇地域防災リーダーの役割について理解する。 ◇地域団体(災害ボランティア含む)との連携の必要性について理解するとともに、実際の連携の事例を基に学習する。 ◇自主防災活動の支援策等について理解する。 ◇地域防災リーダーの実際の活動について理解する。 ※講習会の初めに、班ごとに簡単な自己紹介を行うことで、心が和らぎスムーズに研修に入りやすい。	60分	1単位	庁内
②	◇自分の住んでいる地域の特性の理解 2-1 自分の住んでいる地域の特性 2-2 防災マップの作成◎ 2-3 地域防災力の診断◎	◇自分たちの地域における地震・津波、水害・土砂災害の危険度や地域の防災力について把握する方法として、ハザードマップの活用等による防災マップの作成や地域防災力診断の実施について学習する。	60分	1単位	外部
③	◇常日頃備えておく技能 3-1 情報収集・伝達のしかた 3-2 初期消火のしかた◎ 3-3 救助のしかた◎ 3-4 避難誘導のしかた 3-5 津波避難のしかた 3-6 救護のしかた◎	◇住民の安否や避難の状況、要救助者の有無が把握でき、安全な経路を探し、地域住民を避難所まで誘導できるよう学習する。 ◇住民が協力して消火できる火災か否かが判断でき、消火器や身近なものを使用して消火できるように学習する。 ◇住民が協力して救出できるか否かが判断でき、バール、ジャッキなど身近な工具やコミュニティ防災資機材倉庫に備蓄している資機材を使用して救助できるように学習する。 ◇安全な場所にけが人を移動させ、応急手当が必要か否かが判断でき、適切な応急手当をしながら、けが人を病院等に搬送できるように、止血法、外傷の手当て、傷病者管理法、搬送法を学習する。 ◇トリアージの考え方等災害時医療について理解する。	240分	4単位	庁内外
④	◇自主防災組織の機能を高めるための活動 4-1 自主防災計画 4-2 自主防災活動用アクションカードの作成 4-3 災害時要援護者の避難支援 4-4 DIG 4-5 クロスロードゲーム 4-6 その他の防災ゲームの紹介	◇適正な応急活動等を実現する方法として、防災計画の必要性について理解する。 ◇災害時に組織的な応急活動をする手段として、自主防災活動用アクションカードの作成と活用法について学習する。 ◇災害時要援護者の把握と避難支援について理解する。 ◇地域の実情に応じた参加意欲がわく訓練を実現する手法として、ワークショップによる訓練の企画について学習する。(災害図上訓練(DIG)や災害対応カードゲーム訓練等のロールプレイング型訓練の習得)	120分	2単位	庁内外
⑤	◇東日本大震災や関東・東北豪雨の経験から 5-1 津波ビデオを観る 5-2 避難所生活の体験談 5-3 体験談から学ぼう	◇津波避難ビデオを見る。 ◇避難所生活のポイントについて、東日本大震災や関東・東北豪雨の経験から学習する。 ◇地域と地域防災リーダーの関わりについて学習する。(体験した方の体験談を聞く)。	60分	1単位	庁内外
⑥	◇避難所運営について 6-1 避難所運営	◇地震発生時及び水害・土砂災害発生時の避難所開設、運営の基本的なルールについて学習する。	60分	1単位	庁内
⑦	◇まとめ 7-1 自分の住んでいる地域の防災上の問題◎ 7-2 地域住民に参加してもらおうアイデア◎ 7-3 自分の住んでいる地域で実施したい防災活動◎ 7-4 理解度チェック◎ 7-5 今後に向けての決意表明◎	◇自分の住んでいる地域の防災上の問題についてグループディスカッション ◇住民に参加してもらおうアイデアについてグループディスカッション ◇自分の住んでいる地域で実施したい防災活動についてグループディスカッション ◇防災〇×クイズなど簡単な効果測定を行い講習の成果を確認する。 ◇今後に向けての決意表明	120分	2単位	庁内
合 計			12時間	12単位	

※◎印は、実技・演習を行う。